

## 葛飾区生涯学習振興ビジョンの取組について

【平成24年度取組予定】

一人ひとりが輝き「元気なかつしか」をつくる

学びと交流による

“ひとづくり・まちづくり”

## 生涯学習振興ビジョンの推進について

平成 20 年 11 月、本区の生涯学習の振興を図るために、「葛飾区生涯学習振興ビジョン」を策定し、平成 21 年度から 5 年程度の生涯学習施策の取組の方向と主な施策及び重点施策を示しました。

また「葛飾区教育振興ビジョン（第 2 次）」と併せて、教育基本法第 17 条に基づく葛飾区における「教育振興基本計画」と位置づけました。

この生涯学習振興ビジョンに掲げる施策を総合的に推進するために関係団体の代表や学校関係者等からなる生涯学習振興ビジョン推進委員会を設置し、重点施策の取組などについてご検討を頂くと共に行政評価も踏まえて施策の執行管理をしています。

今回は、平成 24 年度の重点施策の取組予定についてまとめました。

本文の構成は重点施策ごとに、概ね平成 25 年度までの取組の方向並びに数値目標及び平成 22 年度までの実績、次に「平成 24 年度取組予定」となっています。

なお、この生涯学習振興ビジョンは、区で行っている行政評価を踏まえ推進しており、参考として重点施策に関連する事務事業の成果指標等を掲載しています。

## 目 次

### 1 区民の多様な「学び」を通して元気な葛飾をめざします

- (1) かつしか区民大学の開設 . . . . . 1
- (2) わがまち楽習会の実施 . . . . . 3
- (3) 郷土と天文の博物館事業の推進 . . . . . 4
- (4) 図書館サービスの充実 . . . . . 6
- (5) かつしか地域スポーツクラブの推進 . . . . . 8

### 2 学校と地域が連携・協働し、子どもの育ちを応援します

- (1) 学校地域応援団の推進 . . . . . 10
- (2) 放課後子ども事業の充実 . . . . . 11

### 3 地域全体で子育て・家庭教育への支援を進めます

- (1) 家庭教育への啓発・支援 . . . . . 13
- (2) 子育て・家庭教育に関する学習機会の提供 . . . . . 14

### 4 生涯学習推進体制の整備を進めます

- (1) 生涯学習情報システムの構築 . . . . . 16
- (2) 中央図書館等の整備 . . . . . 17
- (3) スポーツリフレッシュ事業の推進 . . . . . 18

## 【取組の方向1】

### 区民の多様な「学び」を通して元気な葛飾をめざします

#### (1) かつしか区民大学の開設

学びと交流の楽しさを基盤とし、かつしかの特徴や魅力を学ぶ「葛飾学」をはじめ文化・教養、ボランティア、健康、生きがいなど、多様な分野について学ぶ新たな区民の生涯学習の場として、区民大学を開設する。

学習の成果を活かし、学習支援や地域・ボランティア活動等の担い手として活躍できる人材を育成する。

全庁的な連携による講座のほか、区民や団体が参画し企画運営する講座、大学などの教育機関との協働による講座も開設する。

また、区民大学の企画運営への参画や、地域での各種活動の担い手となる人材を「生涯学習マイスター」として認定・登録する制度を設ける。

項目	平成 25 年度までの目標 (累計)	平成 22 年度までの実績 (累計)
講座実施数	162 コース	49 コース
受講者数	13,875 人	12,634 人
マイスター認定者数	75 人	0 人

#### 【平成 24 年度取組予定】

平成 23 年度は、2 コース増の 35 コース、62 講座を実施し、12 月末段階で延べ 6,700 人以上の方々が受講した。

平成 24 年度は、23 年度を受講者アンケートの結果や参加状況を参考としながら、講座分野・内容等の検討を行った結果、講座メニューの充実を図り、5 コース増の 40 コースを実施する。また、区民の学びの成果が、暮らしを豊かにし、地域や社会に還元され「夢と誇りあるふるさと葛飾」のまちづくりへ発展していくよう、講座内容や運営方法等を適宜検証し、充実を図っていく。

##### ① 理事会の開催

区民大学の基本的な運営方針や事業計画を策定するために、関係団体の代表及び学識経験者等で組織する理事会（理事長 区長）を、引き続き年 3 回開催する。

##### ② 行政企画講座の実施

生涯学習課・博物館、他所管の区民大学講座を実施する。それぞれの所管の講座が内容面で充実し、区民への一層の周知が図れるよう、庁内連絡会並びに

担当者会を定期的を開催し、連携を図る。

③ 区民運営委員会による講座の企画・実施

平成 23 年度は、2 コース増の 7 コースの講座を企画、実施した。24 年度は、第 2 期区民運営委員会の 2 年目として、これまでの成果と実績を踏まえ、継続的に取り組む講座、新たな分野・内容で取り組む講座を実施する。また、特別講演会の運営協力等、その役割と機能の拡大を図る。

④ 「かつしか郷土かるた」の普及と活用

平成 23 年度に、教育振興ビジョン（第 2 次）に位置付く「かつしか郷土かるた」を、学校、児童・生徒、区民運営委員会、「かるた講座」参加者との協働により制作することができた。

ふるさと葛飾への理解を深め、郷土愛の醸成を図るため、毎年、小学校 3 年生全員に配布し、郷土学習の教材として活用されるようにする。また、かるたによる授業支援のため外部講師を養成する。さらに、学校や地域と連携し、かるた大会の開催など、普及・活用のための方策について検討していく。

区制施行 80 周年記念事業として、「かつしか郷土かるた」の原画展を開催する。

⑤ 区内教育機関等との連携講座の実施

東京理科大学や東京聖栄大学、共栄大学等の区内教育機関との連携講座を、かつしか区民大学として引き続き実施する。また、区内の各種団体と連携を図り、協働で区民大学の講座を実施する。

⑥ 情報誌「まなびぶらす」及びメールマガジンの発行

これまで年 2 回発行のかつしか区民大学情報誌「まなびぶらす」を、年 3 回（各回 4,500 部）に増し発行する。また、タイムリーな講座情報を区民に提供するため毎月定期配信しているメールマガジンの配信数の増に努める。

(H24. 1. 17 現在 配信登録者数 631 人)

⑦ 特別講演会の実施

区制施行 80 周年記念事業として、話題性のある内容や著名な講師による特別講演会（3 回）を実施し、新しい参加者を開拓し、かつしか区民大学の一層の周知を図る。

⑧ 学習単位認定制度の実施

平成 24 年 1 月 17 日現在、区民修士（150 単位取得）1 人、区民学士（100 単位取得）4 人、グッドチャレンジ賞（30 単位取得）を 26 人に交付した。学習単位認定制度に基づく受講証の活用の効果もあり、多くの講座で受講者が増加している。平成 24 年度も、引き続き、認定証の交付が学びの励みとなるよう周知を図る。

**(参考) 行政評価**

**施策名** 学習活動支援

**施策意図** 多様な情報や機会を得て、自主的に学習活動を行っている。

**関係のある事務事業**

区民大学	事務事業意図		①区民の自己実現を支援する多様な学習機会の創出 ②地域に貢献できる人材育成の実施 ③区民の参画、協働による運営の実施	
			22年度目標	22年度実績
	成果指標	延べ受講者数	2,000人	3,657人
		参加者満足度	90%	91%

\*受講者数は、区民大学単位認定講座のうち、区民大学経費で実施した講座の受講者数。

## (2) わがまち楽習会の実施

区民のくらしの向上に役立つテーマの学習や、地域の連帯感を醸成するためのイベントなどを通して、区民が楽しく学び、考え、交流し、仲間づくりをすすめる機会として「わがまち楽習会」を実施する。

地域との関係が希薄といわれる団塊の世代をはじめ、幅広い層の区民に働きかけ、地域の課題に関心をもつ区民を増やし、区民力や地域力の向上につなげていく機会とする。

項目	平成25年度までの目標 (累計)	平成22年度までの実績 (累計)
実施地区(団体)数	40地区(団体)	11地区(団体)

### 【平成24年度取組予定】

わがまち楽習会は、地域の団体等が行う新たな学習会を支援し、地域で楽しく学び、交流できる場をひろげていくために、平成21・22年度の試行期間を経て、平成23年度から本格実施した。

平成23年度には、自治町会や青少年育成地区委員会、学校地域応援団、親子サークルの5団体が、健康やまちづくり、中高校生の居場所づくり、公園の花壇づくりの学習や子ども科学教室に取り組んだ。わがまち楽習会は、同一団体

で2か年まで実施できるが、いずれの団体も学習会に取り組んで有効であったとのことから継続実施を希望している。

平成24年度は、継続実施の5団体については自主的、継続的な学習、実践につながるように支援するとともに、新規実施団体についても募集し実施する。

「堀切大凧揚げ大会」「ザ・にいじゅくフェスタ」等の地域運営モデル事業は、平成20年度から3年間のモデル期間を経て、平成23年度からは地域振興部と教育委員会との共催事業とした。平成24年度も引き続き、地域の方々の積極的な取組による住民相互の交流や地域の活性化に大きく寄与する協働事業として実施する。

#### (参考) 行政評価

**施策名** 学習活動支援

**施策意図** 多様な情報や機会を得て、自主的に学習活動を行っている。

#### 関係のある事務事業

成人対象 講座	事務事業意図		①地域の課題を解決するための糸口を発見し、豊かなまちづくりを担う力を身につける。②継続的・系統的な学習意欲をもち、自ら学習を組み立てる力や自己表現力を養う。③同じ課題や学習要求をもつ者同士が人間関係を作り、団体活動や地域活動をする契機をつかむ。	
			22年度目標	22年度実績
	成果指標	延べ参加者数	9,300人	12,652人
参加者満足度		90%	92%	

### (3) 郷土と天文の博物館事業の推進

郷土と天文の博物館は、生涯学習・教育施設として、幅広い層の利用を促進し、生涯学習・学校教育活動でのより一層の活用を図るため、常設展示について調査・研究を基に展示替えを実施するほか、特別展等では他地域の博物館などと連携・共同展示を進める。

また、収蔵資料の活用を図るため、データベース化をさらに進める。

講座については、体験を取り入れた体験型学習を充実し、プラネタリウム番組の制作では、海外のプラネタリウムや国等の天文機関と連携し、共同番組制

作を進める。

項 目	平成 25 年度目標	平成 22 年度 実績
博物館ホームページへの アクセス件数（年間）	9,000 件	平成 23 年 4 月ホームペー ジ開設

項 目	平成 25 年度までの目標 （累計）	平成 22 年度までの実績 （累計）
プラネタリウム番組制作 数（*）	85 本	34 本
児童向け体験学習受講者数	5,700 人	2,346 人

\*うち海外プラネタリウム等との共同企画や天文機関と連携した番組制作数延べ5本

#### 【平成 24 年度取組予定】

平成 24 年度は、区制施行 80 周年を迎えることから、これを記念し、郷土かつしかの歴史や文化・芸術を広く紹介する企画展・特別展を開催する。具体的には、春に近代彫刻の巨匠で葛飾ゆかりの芸術家平櫛田中（ひらぐしでんちゅう）を取り上げる企画展「平櫛田中とかつしか」、また、夏には、昭和から平成に至る葛飾の街とそこに住むひとの変遷をテーマにした企画展「葛飾 80 年 街・暮らしの移り変わり」、さらに、秋には、東京低地を襲った災害を振り返り、どのような教訓を残し対策を講じてきたかを明らかにする特別展「地震、雷？、火事・・・」を開催する。

プラネタリウム番組の制作では、こどもの宇宙へ夢を育み、関心を高めるため、最新の宇宙科学の情報を取り入れた「こども番組」のリニューアルを進める。加えて、本年 5 月 21 日に 25 年ぶりに日本で観測ができる金環日食に合わせて特別番組「太陽が欠ける時～金環日食～」を制作する。

こども向け事業では、小学生を対象に、葛飾の歴史について体験的に学ぶ「かつしか郷土塾」や宇宙への関心を育む「かつしか宇宙塾」（小学校 5・6 年生対象）、「かつしか宇宙塾ジュニア」（小学校 4 年生対象）、中学生を対象に英語を交えて宇宙について学ぶ「スペースカレッジ」を実施する。

このほか、博物館のホームページを活用した講座やプラネタリウム事業の PR、博物館収蔵資料の公開、一年間使用可能な「パスポートチケット」発行を通じて、博物館への来館者の増を図る。

また、引き続き平成 24 年度も 1 月 2 日・3 日を開館し、区民サービスの向上を図る。

(参考) 行政評価

施策名 学習活動支援

施策意図 多様な情報や機会を得て、自主的に学習活動を行っている。

関係のある事務事業

維持管理	事務事業意図		来館者が利用目的に沿って気持ちよく利用できるよう施設を良好に維持管理する。	
			22年度目標	22年度実績
	成果指標	入館者数	68,000人	70,623人
プラネタリウム番組制作	事務事業意図		区民に天文学を通して現代の宇宙観や地球的・宇宙的な視点と、科学的に考える面白さを知っていただく。学校教育においては、教室での指導が困難な天文分野についてプラネタリウムを活用して行うことで、理科教育の充実を図る。	
			22年度目標	22年度実績
	成果指標	観覧者数	43,000人	50,098人
	成果指標	観覧者満足率	90%	94%

#### (4) 図書館サービスの充実

区民の一人ひとりの学習活動を推進するため、生涯にわたり自主的な学習を行う社会教育施設としての機能を充実していく。区民の身近な『知の拠点』として、これまでの図書・資料の提供による学習支援に加え、地域が抱える課題の解決やビジネス、医療・健康、福祉などに関する情報や資料等の情報提供サービスを整える。

また、学校図書館支援、子どもの読書活動の推進などに引き続き取り組む。平成22年が国民読書年と定められたことを受けて、読書に親しむきっかけをつくる事業を展開していく。

項目	平成25年度目標	平成22年度実績
図書・資料の貸出数(年間)	360万冊	367万冊
区内の図書サービスを利用したことがある区民の割合(*)	36%	37.7%

\*葛飾区政策・施策マーケティング調査

### 【平成 24 年度取組予定】

利用者が必要なときに必要な図書や情報を効率的に受けられるよう、ICTを使った体験講座など利用教育を進める。情報拠点として必要とされるビジネス支援、医療、法律等の情報を収集するとともに、ビジネス相談会などの事業を展開する。公立図書館広域ネットワークや区内外の教育機関との連携により、情報資源の活用、提供を推進する。

平成 23 年 6 月末にオープンした立石図書館では、中央館に次いでビジネス支援に取り組むとともにリサイクル清掃関連施設との複合的な機能を活かし、リサイクルや環境に関わる活動支援のための資料の積極的な収集、提供を行う。

蔵書・図書館利用や読書のきっかけとなる行事の充実により、乳幼児期から青年期までの読書環境の向上を図る。学校図書館と公立図書館の連絡会の開催や新宿図書センターを拠点にした団体貸出配送の充実および学校図書支援コーナーを活用し、学校との連携を深め、学校図書館に対して総合的な支援を行う。

高齢者や障害のある方が快適に利用できるよう、ハンディキャップサービスのPRを行い、利用の促進を図る。また、ハンディキャップ専用機器を活用した読書環境を整備し、情報収集、活用を援助する。サービス面では、ボランティアの協力による録音図書・点訳図書の作成や、拡大写本の導入、宅配サービスなどのハンディキャップサービスを充実するとともに、インターネットを利用した視覚障害者サービスであるサピエ図書館\*に登録し、視覚障害者への音訳資料の提供を新たに行う。

\*「サピエ」は、視覚障害者をはじめ、目で文字を読むことが困難な方々に対して、さまざまな情報を点字、音声データで提供するネットワーク。「サピエ」は日本点字図書館(外部サイト)がシステムを管理し、全国視覚障害者情報提供施設協会(外部サイト)が「運営」を行っている。

### (参考) 行政評価

施策名 図書サービス

施策意図 多様な方法で、必要な図書サービスを受けられている。

関係のある事務事業

維持管理	事務事業意図		<ul style="list-style-type: none"> <li>・快適で、利便性の高い図書館施設を維持し、区民の読書活動を始めとする生涯学習環境を整備する。</li> <li>・学習や生活に必要な資料や情報、豊かな余暇を過ごすための図書資料等を、区民誰もが自由に入手できるよう図書サービスを行う。</li> </ul>	
			22年度目標	22年度実績
	成果指標	貸出者数	1,100,000人	1,317,259人
		来館者数	2,700,000人	3,125,508人
図書館資料等提供	事務事業意図		<ul style="list-style-type: none"> <li>・快適で、利便性の高い図書館施設を維持し、区民の読書活動を始めとする生涯学習環境を整備する。</li> <li>・学習や生活に必要な資料や情報、豊かな余暇を過ごすための図書資料等を、区民誰もが自由に入手できるよう図書サービスを行う。</li> </ul>	
			22年度目標	22年度実績
	成果指標	年間貸出数	3,270,000冊	3,674,249冊
		区民一人あたりの蔵書数	2.9冊	2.76冊

### (5) かつしか地域スポーツクラブの推進

身近な地域で、健康で生き生きと暮らすために、年齢や興味・関心・技術レベルなどに応じて、定期的・継続的にスポーツに親しむ地域スポーツクラブを育成する。

育成にあたっては、育成検討委員会においてモデル地域を選定し、設立に向けた手法やノウハウの蓄積と課題を検証しながら進め、当面区内7か所への設立を目指し、区民への理解と協力を深めていく。

クラブの運営は区民が主体的に行い、子どもが地域でスポーツをしたり、地域の大人たちが子どもとスポーツをしたり、高齢者がスポーツに親しんだりするなど、区民がスポーツに「する・見る・支える」などさまざまな形で携わり、地域交流や地域貢献を重ねながら、健康・体力の維持増進、地域コミュニティの形成、子どもの健全育成を醸成する。

項目	平成25年度までの目標 (累計)	平成22年度までの実績 (累計)
設立クラブ数	3か所	2か所

項目	平成 25 年度目標	平成 22 年度実績
地域スポーツクラブ加入者数	600 人	549 人

### 【平成 24 年度取組予定】

設立後 3 年が経過した「こやのエンジョイくらぶ」では、平成 23 年度、定期プログラム 20 種目に加え、平成 22 年度に区との協働事業で行った「チアダンス教室」を自主事業として 4 月より新設した。

平成 23 年 12 月末現在で 419 人が会員として活動している。

設立後 2 年弱が経過した「オール水元スポーツクラブ」は、平成 23 年度、定期プログラムを 15 種目から 17 種目へと増設した。しかし震災による会場の都合で 3 月、4 月のプログラムを中止したことから、会員数が平成 22 年度の最大 244 人から 4 月末時点で 218 人と減ったが、12 月末現在 237 人と会員数を回復させて活動している。

平成 24 年度は、引き続き両クラブに対して、育成支援指針に基づいた運営面の側面支援や指導助言、クラブメニューの開発や会員獲得、指導者育成に関わる情報提供など、クラブの自主自立に向けた育成支援を進め、クラブと区のパートナーシップの確立を推進する。

かつしか地域スポーツクラブ育成検討委員会においては、引き続き 3 か所目のクラブ設立地域の選定に向けて検討を進める。

### (参考) 行政評価

施策名 スポーツ事業

施策意図 多様なスポーツの機会が提供されて、区民が楽しくスポーツを続けている。

### 関係のある事務事業

総合型スポーツクラブ育成	事務事業意図		区民が自主的に運営する総合型地域スポーツ育成し、多世代が多様なスポーツを身近な地域で楽しむ事が出来るようにする。	
			22 年度目標	22 年度実績
	成果指標	地域スポーツクラブ加入者数	500 人	549 人
		年間プログラム総参加人数	21,000 人	25,629 人

## 【取組の方向 2】

### 学校と地域が連携・協働し、子どもの育ちを応援します

#### (1) 学校地域応援団の推進

学校教育を支援する「学校地域応援団」を各学校に設置し、児童・生徒の学習支援や教育環境の整備、安全活動等に、地域が学校に協力して取り組む仕組みづくりを行う。

項目	平成 25 年度目標	平成 22 年度実績
ボランティア参加者数(年間)	14,000 人	16,186 人
外部評価アンケート(*)	80%	79%

\*学校教育アンケート「学校は保護者や地域の人などが積極的に教育活動に関われるように工夫しているか」についての肯定的な回答の割合

#### 【平成 24 年度取組予定】

平成 23 年度は、新たに北野小学校、半田小学校、梅田小学校で立ち上がり、学校地域応援団の実施校は 21 校となった。12 月末日現在、ボランティアの参加人数は、延べ約 13,000 人である。

8 月には、区立小学校・中学校の校長を対象にした学校地域応援団のアンケートを実施し、実施校での効果や課題、未実施校での立ち上げにあたっての課題、実施予定を把握した。集計結果を各校に報告し、立ち上げの参考と計画的拡大の資料とした。

地域コーディネーターへの支援として、コーディネーター・ミーティングを 2 回(4 月、10 月)開催した。4 月は委嘱式と合わせ、コーディネーターの業務内容の伝達、及び意見交換を行った。10 月は、各校の事業内容及び課題について話し合い、課題の解決に向けた意見交換を行った。また、12 月には、東京都の出前研修を活用し、地域コーディネーター研修を実施した。

ホームページは、各校の支援活動やお便りを紹介するなど、事業内容が分かりやすくなるように改善した。

平成 24 年度は、学校地域応援団の実施校を延べ 28 校(27 応援団)に拡大する。

学校地域応援団の啓発パンフレットの活用により、学校・保護者・地域へ積極的に働きかけをしていく。

地域コーディネーターに対しては、ミーティングや研修会を開催し、活動内容の充実に向けた支援をする。また地域コーディネーターの負担の軽減を図る

ため、アドバイスや相談を受ける体制を作っていく。

課題であるボランティアの確保については、ホームページを活用して事業を広く区民に知らせ募集をしていく。また、学校支援ボランティアの仕組みを活用し、ボランティアの発掘や育成を行っていく。

**(参考) 行政評価**

**施策名** 家庭や地域との連携

**施策意図** 学校、家庭、地域が連携し、より豊かな教育活動が行われている。

**関係のある事務事業**

学校地域応援団事業	事務事業意図		学校家庭地域の協力により豊かな教育環境を作り出すとともに学校を核とした地域コミュニティの形成に寄与する。	
			22年度目標	22年度実績
	成果指標	学校地域応援団数(校)延べ校数	15校	18校

**(2) 放課後子ども事業の充実**

放課後や土曜日、三季休業中の学校施設を活用し、地域の方々の見守りのもと、放課後子ども事業(わくわくチャレンジ広場)を全小学校で実施し、子どもたちの安全で楽しい遊び場を提供している。活動を通じて子ども同士や地域の大人との交流のなかで、自主性や社会性を育んでいく。

現状の子どもたちは、学ぶ習慣や体験しチャレンジする心、ルールを守る心や人間関係を構築する力などに弱い面があり、このような課題に対し、学校教育と放課後子ども事業が連携し、協力し合って対応していくことが必要であることから、教育面に配慮しつつ活動内容の充実を図っていく。

項目	平成 25 年度目標	平成 22 年度実績
児童の登録者数	10,500 人	10,135 人

**【平成 24 年度取組予定】**

活動内容の充実について、平成 20 年度から自由遊びを基本に、学習、文化・

スポーツ活動などの新たな活動プログラムを学校と連携しながら実施し、平成23年度で15校となった。平成24年度は、新たに3校程度導入する。

わくわくチャレンジ広場は、4～6年生を対象にしている学校がほとんどであったが、平成19年度から3年生を中心に対象学年の拡大に取り組み、平成23年度末で3年生以上を対象とした学校は28校となる。引き続き地域の理解と協力を得ながら、平成24年度は3年生以下への拡大を含め、3校程度で対象学年の拡大に取り組む。

**(参考) 行政評価**

**施策名** 青少年育成事業

**施策意図** 青少年のための活動機会が整い、活発に活動している。

**関係のある事務事業**

放課後子ども事業（わくわくチャレンジ広場）運営	事務事業意図	子どもたちが自主性や社会性・創造性等を身につける。		
		22年度目標	22年度実績	
	成果指標	登録率	80%	80.8%
		1日平均の参加率	20%	17.6%

### 【取組の方向3】

## 地域全体で子育て・家庭教育への支援を進めます

### (1) 家庭教育への啓発・支援

「早寝・早起き、朝ごはんコンサート」の実施や「早寝・早起き、朝ごはん食べようカレンダー」の作成、ノーテレビ・ノーゲームデーの実施を通して、子どもの生活習慣確立の大切さを啓発していくとともに、保護者の主体的な取組を促していく。また、「家庭教育のすすめ」を作成し、家庭教育の重要性についての啓発普及を進めていく。

さらに、PTA活動への支援や学校地域応援団の取組を活用しながら、保護者相互の交流、学校との協働関係を通して、家庭の教育力向上のための支援を促進していく。

項 目	平成 25 年度目標	平成 22 年度実績
平日午後 9 時 30 分までに就寝した児童の割合 (小学校低学年) (*)	75%	76%
平日午後 10 時までに就寝した児童の割合 (小学校高学年) (*)	60%	63%

\* 「早寝・早起き、朝ごはん食べようカレンダーに関する」による児童の生活習慣に関する基礎データ調査

### 【平成 24 年度取組予定】

「早寝・早起き、朝ごはんコンサート」については、平成 23 年度は 12 月末日現在、6 会場で 11 団体 (小学校 3 校、保育園 7 園、幼稚園 1 園) が実施し、また地域教育課主催のコンサートも実施し、延べ 1,878 人が参加した。平成 18 年度から 23 年度までに 44 会場でコンサートを実施し、約 8,600 人に対して基本的な生活習慣の育成を行い、一定の成果を上げることができたため、平成 24 年度は実施せず、今後は、朝食レシピコンテストなどを通じて基本的な生活習慣の育成に取り組む。

「早寝・早起き、朝ごはん食べようカレンダー」については、平成 23 年度は平成 24 年度版を作成し、小学生用は区立小学校全児童、幼児用は区内幼稚園、保育園全児童を対象に配布する。また、児童の朝食に対する意識を高めるために「朝食レシピコンテスト」を開催した。472 作品の応募があり、1 次で書類審査、2 次で調理審査を行い、最優秀作品 1 点、優秀作品 2 点、入選 9 点を選出

した。選出された12点は、平成24年度版「早寝・早起き、朝ごはん食べようカレンダー」に作品を掲載する。平成24年度は、平成25年度版カレンダーを作成するとともに、「朝食レシピコンテスト」も引き続き開催する。

リーフレット「家庭教育のすすめ」については、平成23年度は幼児～小学校低学年版を3歳児の保護者向けに配布するとともに、10月にはリーフレットを周知するための説明会を実施した。平成24年度は「家庭教育のすすめ」を活用した学習会や、入学説明会で家庭教育についての講話を実施する。

「ノーテレビ・ノーゲームデー」については、平成23年度は「ノーテレビ・ノーゲームデー」推進事業実施校の土曜公開授業で有識者による講演会などを12月末日現在、小学校3校で実施した。また、小学生のいる家庭を対象に「親子の手紙コンクール」を実施し、子どもだけでなく親も巻き込んだ啓発を行った。12月末日現在、211作品の応募があり、審査会を行い、優秀作品を選出する。平成24年度は引き続き土曜公開授業での講演会などの啓発事業、「親子の手紙コンクール」を中学生も対象として実施する。

**(参考) 行政評価**

**施策名** 家庭や地域との連携

**施策意図** 学校、家庭、地域が連携し、より豊かな教育活動が行われている。

**関係のある事務事業**

家庭教育支援事業	<b>事務事業意図</b>		子どもの生活習慣の確立、子育ての知識の普及を通して家庭の教育力の向上を図る。	
			<b>22年度目標</b>	<b>22年度実績</b>
	<b>成果指標</b>	平日、午後10時までに就寝した児童の割合(高学年)	60%	63%

**(2) 子育て・家庭教育に関する学習機会の提供**

子どもの年齢や発達にあわせた講座の実施をはじめ、保護者や各種団体が行う学習活動を支援することにより、子育て・家庭教育の学習機会の拡大を図っていく。

項目	平成 25 年度までの目標 (累計)	平成 22 年度までの実績 (累計)
子育て・家庭教育講座の参加者数	5,895 人	2,201 人
家庭教育応援制度の利用団体数	213 団体	72 団体
家庭教育応援制度の参加者数	8,550 人	3,867 人

### 【平成 24 年度取組予定】

「子育て講座」については、これまで、子育て支援部や保健所と連携しながら、1・2歳児の保護者を対象に実施してきた。平成 23 年度は、6 コース（1歳児 3 コース、2歳児 3 コース）で実施し、延べ 440 組（905 人）の親子が参加した。平成 24 年度も引続き、応募者数の多い地域を中心に 6 コース（1歳児 3 コース、2歳児 3 コース）実施する。

「家庭教育応援制度」については、PTA や子育てサークルなどが主催する「家庭教育」をテーマとした学習会に、講師を派遣してきた。平成 23 年度は連続コースを新設し、12 月末現在、1 回コースで 34 団体、連続コースで 3 団体が学習会を実施することができた。また、学習会への参加者を公募することで、実施団体に属していない親も参加できる仕組みを作った。平成 24 年度も同様に取り組み、多くの親に学びの機会を提供していく（1 回コース 40 団体、5 回連続コース 5 団体）。

### （参考）行政評価

施策名 家庭や地域との連携

施策意図 学校、家庭、地域が連携し、より豊かな教育活動が行われている。

### 関係のある事務事業

家庭教育支援事業	事務事業意図		子どもの生活習慣の確立、子育ての知識の普及を通して家庭の教育力の向上を図る。	
			22 年度目標	22 年度実績
	成果指標	延べ講座参加者数	4,200 人	5,094 人

\*講座参加者数には、早寝・早起き、朝ごはんコンサート、家庭教育のすすめ啓発講座、ノーテレビの講座などの参加者数を含む。

## 【取組の方向 4】

### 生涯学習推進体制の整備を進めます

#### (1) 生涯学習情報システムの構築

区民の生涯学習への参加を促し、学習活動が充実・活性化し、交流が進むように、インターネットを活用した生涯学習情報システムの整備を行う。

区民がいつでもどこでも気軽に、学習機会や施設、人材・指導者、教材等の学習情報が入手でき、かつ実際に活動している団体などの活動や成果にもアクセスできる情報システムを検討し、構築する。

#### 【平成 24 年度取組予定】

平成 23 年 3 月の区ホームページのリニューアルにより区が行う講座やイベント等の区民の情報提供体制が整備された。また、区が今年度行う講座、イベントを一覧にまとめ、ホームページへの掲載、及び区施設窓口での閲覧により、区民への学習情報の提供を行った。

人材情報の提供については、生涯学習人材バンクの登録者の詳しい情報をホームページに掲載し、人材バンクの活用を図った。

平成 24 年度は、引き続き学習情報の提供を行うとともに、団体情報の提供について検討する。

#### (参考) 行政評価

施策名 学習活動支援

施策意図 多様な情報や機会を得て、自主的に学習活動を行っている。

#### 関係のある事務事業

学習相談・ 学習情報の 提供	事務事業意図		区民が適切な学習情報やアドバイスを得ることにより、より効果的な学習活動ができる。 団体活動に関するアドバイスや情報を得ることにより、団体活動が活性化する。	
			22 年度目標	22 年度実績
	成果指標	相談件数	870 件	768 件

## (2) 中央図書館等の整備

中央図書館を金町駅南口再開発事業地内に移転し、区内図書館のセンター機能の強化及び、区民の多様なニーズに応えられるよう、開館時間の延長やICTサービスの拡大を進めることで、区民の多様な学習の場を提供する。

専門的な資料や地域資料を充実させ、より高度なレファレンスを提供することで、ビジネス支援や課題解決に向けた生活支援、及び図書館を軸としたボランティア活動の支援を目指す。

また、立石図書館の建替、地区図書館の整備を進めていく。

項 目	平成 25 年度までの目標 (累計)	平成 22 年度までの実績 (累計)
図書館の整備	新中央図書館の開設	開 設
	立石図書館の改築	竣工、開館準備
	図書センターの開設	新宿図書センターの開設
	地区図書館の整備	奥戸地区図書館の竣工、書架等備品購入

### 【平成 24 年度取組予定】

中央図書館については、今後も利用者ニーズの掘り起こしや、課題解決型図書館として多角的な資料収集および事業展開を行うとともに、葛飾区ゆかりの作家や地域に関する資料のデジタル化をし、平成 25 年度の公開に向けて準備を進める。

平成 24 年度においても年末年始（12 月 31 日～1 月 3 日）を休まず開館し、この期間を中心に葛飾の観光情報を中心に地域資料の提供を行う。

平成 23 年 4 月に開館した奥戸地区図書館では、地域住民への周知を図るとともに南奥戸小学校との連携を進め、地域の読書活動の拠点とする。

立石図書館の建替えについては、平成 23 年 6 月 30 日にリニューアルオープンを行った。平成 24 年度は利用者の拡大と資料の充実を図っていく。また、ビジネス支援を始めとした各種事業に取り組む。

### (参考) 行政評価

施策名 図書サービス

### 施策意図

多様な方法で、必要な図書サービスを受けられている。

関係のある事務事業

立石図書館 建設	事務事業意図		施設の老朽化に伴い建替え、読書に親しめる環境を整備するとともに、駅に近いという利点を生かしビジネス支援業務を強化していく。	
			22年度目標	22年度実績
	成果 指標	実施設計の完成度	100%	100%
工事進捗率		100%	100%	

### (3) スポーツ施設のリフレッシュ事業の推進

多種多様な区民ニーズに的確に対応できるスポーツ施設を整備する。特に、スポーツやレクリエーション活動の中核施設となっている総合スポーツセンターの改修整備、設備機器の更新を行い、安全で安心して快適に利用できる施設環境を整える。

水元体育館（体育館・温水プール）の老朽化が激しいため、フィットネスパーク整備事業として改築を進める。また、水元中央公園部分も含めたスポーツ公園としての整備を行う。

項目	平成 25 年度 目標	平成 22 年度 実績
スポーツ施設の区民の満足度 (身近な所にスポーツを楽しめる施設がありますか) (*)	60%	50.9%

葛飾区政策・施策マーケティング調査

#### 【平成 24 年度取組予定】

総合スポーツセンター体育館及び陸上競技場については、平成 23 年 11 月 1 日より電気設備、給排水設備、空調設備の大規模リニューアル工事に着手し、平成 24 年 4 月 25 日竣工予定で進めている。平成 24 年 4 月 29 日には区民体育大会総合開会式を挙行予定で、改修後の供用が可能となる。今後も小規模改修については、平成 17 年度に実施した建物診断結果をもとに、安全で安心して快適に利用できるよう緊急性の高い項目から、引き続き改修整備を行っていく。

平成 24 年度においては、総合スポーツセンター温水プール館の非常用放送設備の改修を行う。その後、各野球場の整備、テニスコート改修、陸上競技場公認工事を進める予定である。

フィットネスパーク整備事業については、平成24年度は、平成23年度から行ってきた水元体育館の実施設計を完了させるとともに、体育館の建設工事等を進める。

**(参考) 行政評価**

**施策名** スポーツ施設

**施策意図** スポーツの場が整い、区民が楽しくスポーツを続けている。

**関係のある事務事業**

<b>運動場整備</b>	<b>事務事業意図</b>		体育施設の整備や改修を行い機能の充実を図り、区民が安心して利用できる生涯スポーツの場を提供する。	
			<b>22年度目標</b>	<b>22年度実績</b>
	<b>成果指標</b>	区民全般が安心して利用できる野球場、球技場の整備数(面)	31面	31面
		区民全般が生涯スポーツの場、健康増進の場として気軽に利用できるテニスコートの整備数(面)	23面	23面